

Nara Women's University

中学英語学力診断テストの結果について

メタデータ	言語: 出版者: 奈良女子大学文学部附属中・高等学校 公開日: 2010-11-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 荒木, 孝子, 加藤, 勇, 吉岡, 幸子, 水町, 律子, 吉岡, 一郎 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10935/2306

中学英語学力診断テストの結果について

荒木孝子・加藤 勇・吉岡幸子
水町律子・吉岡一郎

【はじめに】

本校の中高一貫教育が実施されてから 6 年目になる。

5 年前、「英語における中学校高等学校一貫学習指導計画の試案」（「研究紀要」第 15 集 1973）の中の中三のカリキュラムの項（※1）で述べた計画に基づき、その後の「英語科における二年間のとりくみと問題点」（「研究紀要」第 17 集 1975）の中の中三の授業方針についての項（※2）の診断テストについて述べた方針に従って、1975. '76. '77 年度の中三の二学期及び三学期に実施したテストの結果をまとめて考察した。

（※1）「中三の三学期には本校で作製した中学英語診断テストを実施し、その結果を参考にして、中三から高一への英語学習の進度を調整する。」

（※2）「その中味は、文法事項を中心とし、語句なども含めたもの。中学生としての到達目標にどれだけ達しているのか、どこがつかずいている箇所なのかを明らかにし、基礎的な学力を保障する立場から、その後の指導材料にあてる。そしてこの立場から考えて標準学力テストはどうあるのが望ましいのかを探索していきたい。」

【目的】

先にも述べたように本校では 1973 年度より中高一貫教育を実施したが、それをうながす直接のきっかけは、付属学校の「教育・研究の任務」と、成績の悪い生徒を中三から高一に移る段階で他の中学校に送りだし、かわりに成績の良い生徒を選抜試験で入学させる非教育的な措置との矛盾から生じた反省であった。

進学校を標榜する「エリート校」であるうちは教師の目はいきおい「できる」生徒に向いてしまうが、全員無試験の中高接続となれば当然「落ちこぼれ」の生徒の問題を避けて通ることはできなくなってくる。まして、英語のように中学三年間ですでに大きな学力差のついている生徒たちを更に高校で三年間学ばせるにあたって、その対処の仕方が検討されずにはいられないのである。加えて、「学習指導要領」が中学校 1980 年度、高等学校 1982 年度よりそれぞれ改定施行されることになり、授業時数の削減とともに、とくに中学においては内容の精選がせまられている。

上記のような事情のもとで、「中学英語学力診断テスト」を試行しているが、次の〔実施要項〕にあるとおり、中学英語の到達度について各項にわたり「診断」するものである。原則として生

徒にはその得点を一切知らせていない。

このテストの結果、【はじめに】でも紹介されているように、全体として到達目標にどこまで達しているか、どの部分の理解が弱いのか、どの項目はよくわかっているのかなどといった点が明確になった。その結果を踏まえて高校への移行期、とりわけ高一の一学期に、全体としてつまづいている箇所の重点指導を具体的におこなうことが可能になった。ややもすると従来は、「新高一の生徒は英語が少し弱い」といったような抽象的なとらえ方しかできなかったのが、例えば、「新高一の生徒は時制の項目を50%理解しているものが33%しかいない。」というように、弱点をかなり具体的にとらえられるようになり、高校における指導の方向性が打ちだせるようになってきている。

また、このテストは学年全体に対する指導だけではなく、生徒個人に対する指導にも大きなねらいがあり、別紙「診断テスト評価」——資料1（英語学力診断カード）を個人別に作成し、英語を苦手とする生徒について、中学卒業時の到達度から見てどの点が弱いのかを指摘し、高校での勉強に的確なアドバイスを与えることができるようになっている。

すでに本校では、授業内容精選の観点から「中学英語動詞用例集」（1976年刊）を編集、補助教材として使用し、効果をあげている。さらにこの診断テストの結果をより深く考察し、授業時数の減少という大きな壁にぶつかる中学英語の授業内容の工夫に役立てることもその大きなねらいの一つである。

【実施要項】

このテストは、1975. '76. '77年度の中三の生徒について、次の要項で実施した。

回	期 日	所要時間	内 容
1	11月下旬	45分	時制. 文
2	1月下旬	45分	形容詞. 副詞. 助動詞. 代名詞. 単語
3	3月上旬	50分	関係代名詞. 関係副詞. 受身. 動名詞. 分詞. 不定詞

なお、使用教科書は、EVERYDAY ENGLISH REVISED 1. 2. 3（中教出版社）

〔文法項目〕

〔 中 学 英 語 診 断 テ ス ト 〕

時 制 I. ()内の動詞を時を考慮して適当な形に変えなさい。必要ならば語を補いなさい。

[1] Dick Whittington was a poor boy. He (have)₁ no parents, no brothers or no sisters. His only friend was a cat.

One day he (hear)₂ about London from a man. The man said, "Everything (be)₃ wonderful in London. I've made a lot of money there."

"What a nice place! I will go to London, too. I (never be)₄ hungry there," said Dick.

Dick (carry)₅ the cat on his shoulder and (go)₆ to London. He started to work at a rich merchant's house. To help the cook (be)₇ his work. He worked hard. The cook (not like)₈ the cat and was not kind to him. "You (not finish)₉ your work yet," she always said to him.

[2] Uncle Fred (stay)₁₀ with the Jones family for about a week. Tomorrow he (leave)₁₁ for Australia. He (be)₁₂ busy since he came to America. He (work)₁₃ in the barn now.

Nancy: Why, Uncle Fred! What are you doing here ?

Uncle: I (make)₁₄ a boomerang.

Nancy: What's a boomerang ?

Uncle: It's used for hunting in Australia. When it (fly)₁₅ through the air. If it doesn't hit its mark, it (return)₁₆ to you.

文 II. 次の単語を用いて4通りの文を書きなさい。17～20

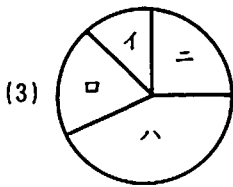
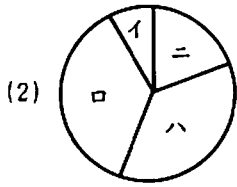
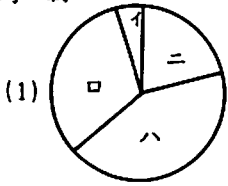
to writing Jill letter is a Ann

III. 次の文の最後に(. ? !)の中の適当な記号をつけなさい。

1. A withch lost her broom ()₂₁
2. How can she fly ()₂₂
3. Look at those beautiful flowers ()₂₃
4. How beautiful those flowers are ()₂₄

〔 正 答 率 〕

時 制



〔 考 察 〕

全部できた生徒が他の項目に比べて極端に少ないのは、まとまった文中での時制がわかりにくいこと。特に現在形、現在完了形、現在完了進行形概念の理解が徹底していないことにある。さらに設問が他の項目に派生している（I. (i)3の everything 及び (i)4の never）ことなどが考えられるので、設問を検討する必要がある。時制の概念がわかりにくいのは、現在の教科書は状況がはっきりしない場面での切れ切れの文が多いことが大きな原因で、中一の段階から生きた普通の文に慣れさせるために、補助教材の必要を痛感している。また入門期に現在時制よりも、状況のはっきりした現在進行形とか、過去の文のほうが、概念としては、とらえ易いようである。

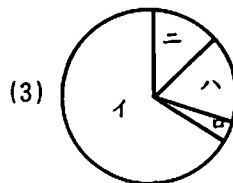
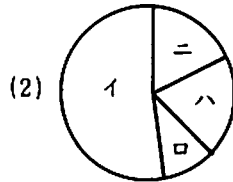
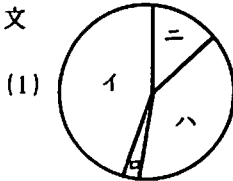
〔注〕〔正答率〕グラフ内の記号は次のことを表わす。

- イ→100%
- ロ→81%～99%
- ハ→51%～80%
- ニ→50%以下

- (1) 1975 年度
- (2) 1976 年度
- (3) 1977 年度

（詳しい誤答例については資料2を参照）

文



主語になる語の選択と、write to — の句の語順の間違いやHowで始まる感嘆文と疑問文の区別のできていない生徒が多い。英語と日本語の語順の違いを理解させることや、文法を中心にして配列した教科書の例文ばかりでなく、口語的な文にも慣れさせることが必要である。次回からは、種々の疑問文や、複文の設問も入れる。

形容詞 Ⅱ. ()に()内の語を適当な形にして書き入れなさい。
副詞

1. Tom can run (12) than Dick. [fast]
2. Which is (13), this doll or yours ? [pretty]
3. I think the rose is (14) of all the flowers.
[beautiful]
4. What is (15) season of the year ? [good]

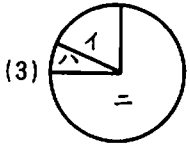
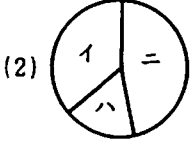
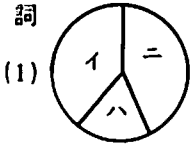
助動詞 Ⅲ. ()に適語を入れて問答を完成しなさい。

1. "May I use a pencil when I write a letter ?"
"Yes, you (16)"
 2. "Must I go to the station at once ?"
"No, you () () ()."
- 17
3. "(18) you open the window ?"
"All right."
 4. "(19) I bring your breakfast here ?"
"Yes, please."

代名詞 Ⅳ. ()に適当な代名詞を必要ならば形を変えて入れなさい。

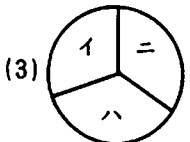
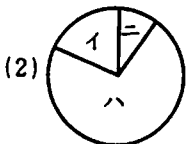
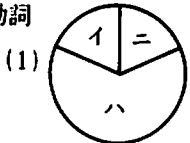
1. Thank you for (20) very interesting letter.
2. Grace has slept well, hasn't (21) ?
3. "Is this book yours ?" "Yes, it's (22)."
4. We see some children singing with candles in
(23) hands.
5. "Is that Jane's pen ?" "No, it isn't (24) pen."
6. The man was standing there with a hat on (25)
head.
7. We can see with (26) eyes.

形容詞
副詞



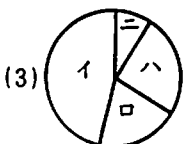
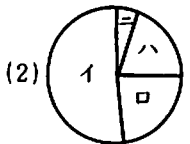
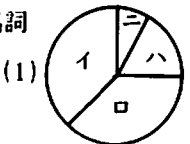
— er, —est, と more—, most— の使い方を正確に理解していない。more pretty と答えた生徒が意外に多く、prettier の綴りの間違いが多いのは、概念と綴りを同時に問う (pretty の比較級) 複雑さのためである。最上級に修飾される名詞に定冠詞を忘れている生徒も多い。設問が比較に限定された傾向があるために理解の判断が一面的になっている。次回からは、頻度、場所、時を表わす副詞の設問及び量、数を表わす形容詞の設問を付け加える。

助動詞



Will you—? Shall I—? はよくできている。don't have to— の正しい使い方ができていない。これは have to— そのものがよく理解できていないのと、Must I—? に対して否定の答え方が徹底していないことによる。can, be able to— が正しく使えるかどうかの設問も必要である。

代名詞



できが悪いのは、日本語と英語の代名詞の使い方の相違に原因があると思われる。設問Ⅳ. 1. Thank you for your letter, の文のできが特によくないのは、日常会話の慣用表現が身につけていないことも一つの原因である。代名詞の格変化と、文中での位置は入門期に特に入念に指導する必要がある。設問Ⅳ. 4.6. に関しては問題文が難しすぎる。次回からは、代名詞の理解度だけを知る設問にする。

関係代名詞 I. 次の文を読んで下の問いに答えなさい。

The speech contest (1) was held last Sunday was a great success. The pupils (2) took part in the contest were 18 in all.

Dick Jones spoke on "The Greatest Man (3) I Have Ever Met". He says that the greatest man is his father. Helen (4) mother died when she was a little girl told us about her memory. Her speech moved us deeply. She got the first prize.

After the prizes were given, Miss May Armstrong talked on "Books (5) We Should Read". Miss Armstrong is a famous writer (6) everybody respects.

1. 1～6には適当な関係代名詞を入れなさい。
(ただし、that については特にそれを用いる時のみ使用すること。)
2. 上の関係代名詞の中で省略できるものを番号で答えなさい。
3. 下線部の文章については say を過去形にして文を書きかえなさい。
(解答欄の必要などところだけ訂正すること。)

{ 設問3は
時制の項
へ }

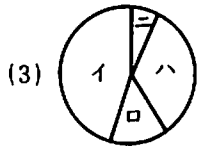
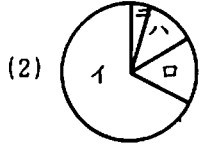
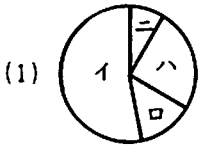
関係副詞 II. 次の a の文を b の文に書きかえる時、() に一語入れなさい。

1. a. I can't forget the day. On that day we met first.
b. I can't forget the day () we met first.
2. a. I went to a shoe store. Many kinds of sports shoes are sold there.
b. I went to a shoe store () many kinds of sports shoes are sold.

受身 III. 受身の形に書きかえなさい。ただし()には一語ずつ入れること。

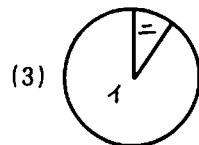
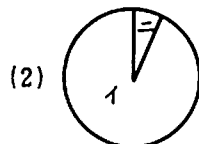
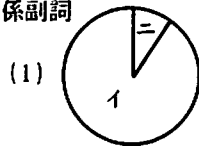
1. Everybody loves Kate. → Kate () () by everybody.
2. The cat caught the mouse. → The mouse () () by the cat.
3. They speak English in America. → English () () in America.
4. They will not play the football game next Wednesday. → The football game () () () next Wednesday.
5. We call our dog Spot. → Our dog () () ().

関係代名詞



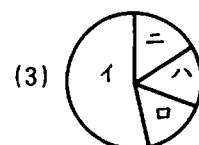
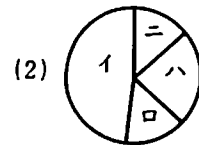
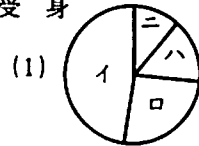
全体に良くできている。但し、省略できる目的格を指摘するのはできが悪い。例えば、That is a teacher everyone loves. のような文に初めから慣れさせることが必要である。関係代名詞は高校の教材にもよく出てくるので、中学では基本的なものだけにかぎって、設問をもう少しやさしくするほうがよい。

関係副詞



たいへん良くできているが、設問の数が少ないので、ほんとうに理解しているかどうかを知るのに十分ではない。次年度からは高校での指導項目になるので省略する。

受身



設問Ⅲ 4. won't be played のところで間違っている生徒が多い。これは助動詞の短縮形の理解が十分でないことによるので、設問の()を4つにして(will)(not)(be)(played)と答えさせていたら、もう少し正解の数がふえていると考えられる。

設問Ⅲ 5. Our dog is called Spot. を間違えている生徒が多いのは、行為者by—を省略した受身の文に慣れていないためである。

指導の立場では、能動態を機械的に受動態に直すことの弊害を考慮することと、実際に用いられる受動態の文をもっと示して受身の概念を徹底させる必要がある。

分 詞 IV. ()の中の動詞を適当な形にしてください。

1. My brother is fond of (make) model planes.
2. The radio (make) in Japan is very good.
3. Tom is enjoying (make) Spot's dog house.
4. Who is the man (show) to a boy the way to the station ?
5. Under the tree a merchant sat (show) a lot of toys.

不 定 詞 V. ()の中に to が必要ならば書き入れ、不要ならば×印を書き入れなさい。

1. I want you () help me.
 2. We saw Mary () buy a doll.
 3. We had better () go at once.
 4. My father told me not () go there.
 5. Let me () drive your car.
 6. Mr. Bell made us () use the dictionary.
 7. I want () learn English.
 8. I asked my mother () play with me.
-
1. There are many places to visit in Kyoto.
 2. We got up early to be in time for the train.
 3. The teacher began to tell a story.
 4. Mother was pleased to see my Christmas presents.
 5. It is hard for them to make money.
 6. I don't know when to start.
-
- A. Did you try to open the box ?
 - B. Do you have anything to tell us ?
 - C. Mr. White is happy to be with his son.
 - D. The man stayed in the park to sell the flowers.
 - E. It isn't easy for me to read that book.
 - F. Do you know how to catch wild animals ?

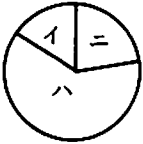
単 語 1. ()に適語を一語入れなさい。

- A. How (1) days are there in a week ? There are seven. Sunday is the (2) day of the week. The (3) day of the week is Wednesday. (4) comes after Wednesday. Friday is the (5) day of the week. (6) is the last day of the week.
- B. Christmas comes in (7) . St. Valentine's Day* is in (8) . School begins in (9) in Japan. In May we have (10) snow in the fields and often go on a picnic. We have (11) rain in June. And now our summer vacation will soon come.

* 聖バレンタインデー

分詞

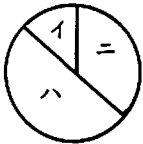
(1)



(2)

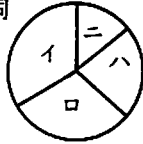


(3)

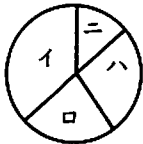


不定詞

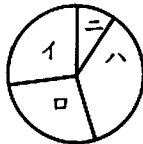
(1)



(2)

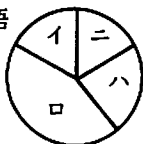


(3)

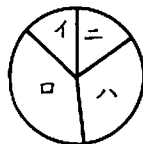


単語

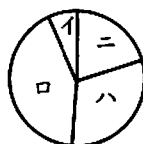
(1)



(2)



(3)



慣用句として前置詞の目的語となる動名詞は理解されている。形容詞的用法の現在分詞は間違いが多い。これは設問Ⅳ. 2. の正解率が高いのを考えると、全体として問題文を平明にして設問の数をふやすようにする。設問Ⅳ. 3. の動名詞の理解そのものを知るにはeを消して—ing形にしなければならないmakeは不適當なので、もっと基本的な動詞に替える。また、設問4.5.の文も難しすぎたので、もっと平明な文にする。文法用語をなるべく使わないようにするために設問中の動詞という語を省き、—ing形と過去分詞の形容詞的用法の理解度をもっと確実に知るために設問をふやしたい。

問題文が難しかった。had betterのあとの原形不定詞とmade us useの原形不定詞のできの悪いのが目立つ。to不定詞に指導が片寄りすぎている。もっとも、次年度からは原形不定詞は中学では扱わないことになるので、この種の設問は設けない。全体として、もっと平易な文にし、各用法毎に設問する方が理解度をもっと深く知ることができる。

大へんできの悪いものは、fourth→forth, February→Feburuaryである。設問1.B. In May we have no snow.の文は内容がややあいまいである。同時にあやまりの多かったmany rainは、次回からは形容詞の項目で取り扱うことにする。月、日の名詞の初めは大文字ということは徹底していて、綴りを間違ってもこのことは頭にあるようだ。単語についてはもっといろいろな角度から理解度を見られるように設問を工夫する必要がある。

【おわりに】

初めての試みなので、全般的に問題文が少し難しすぎたこと、設問の意図が生徒にわかりにくかったことなど、今後工夫すべき点を残している。

今回のテストの結果を通して、統計的に、具体的に全体の生徒の理解度を把握できた。中学から高校への移行の段階で、中学英語の到達度を考慮に入れ、高校での指導の手がかりを得た。さらにこのテストの結果を項目別に記入した個人の診断カード「診断テスト評価」—資料1.による生徒個人の指導もできるようになった。

このテストの結果、教科書の内容、例文、分量、文法項目の取り上げ方の順序、語いなどに不適当な点が多く、検討する必要が特に強く感じられた。段階に応じての補助教材を準備すること、間違いやすい文法項目に関する例文集を作ること、独自の教材製作をすることを計画したい。各学年を数年間同じ教師が担当し、その学年の指導内容の継続的な研究に取り組むこともしたい。

なお、文部省の学習指導要領改訂にともなう中学の英語授業時数の減や、依然として改善されていない一学級の生徒定数などの厳しい教育条件や、入学試験という現実の壁のもとで、どういう英語教育をするか、英語教育を通して生徒に何を与えるのかなど、さまざまな問題が残されている。

資料1.

診断テスト評価				日	番号	名前
文法項目	概念の理解	語りの理解		文法項目	概念の理解	語りの理解
時制	過去			受動動詞		
	現在			身動動詞		
	現在完了			分詞		
	現在進行			動名詞		
	未来			不定詞	toのいる時	
	時刻の一致				toのいない時	
文法	語順	平叙		関係詞	形容詞	
		疑問			副詞	
	疑問	感嘆			名詞	
		命令			数値の形容詞	
	形制	原形			序数	
比較級				曜日名		
最上級				月名		
助動詞				アクサント		
人称代名詞	目的格			Hearing		
	主格			Intonation		
	所有格	普通			Ir	
		代名詞			breath group	
関係代名詞	who			読む力		
	whose					
	who/whom					
	which					
	that					
副詞						
関係副詞	when					
	where					

資料2. 誤答数表 対象学年 1976年度中3(132名)

I. 時制

1. 時制

	正解	誤答数
1	had	14
2	heard	21
3	is	67
4	will never be	78
5	carried	34
6	went	8
7	was	11
8	did not like	26
9	have not finished	46
10	has been staying has stayed	67
11	will leave	28
12	has been	41
13	is working	43
14	am making	40
15	flies, will fly	51
16	returns, will return	24

(10)

stayed	16
is staying	8
staying	7
stays	5

現在完了以外の時制で
書いている者は50名。

(11)

leaves	10
--------	----

未来以外の時制で書い
ている者は23名。

(12)

was	24
is	6

現在完了以外の時制で
書いている者は39名。

誤答例(特に多いものをあげる)

(1)

has	13
-----	----

 (5)

carried	22
---------	----

(2)

heared	7
--------	---

 (6)

goes	3
------	---

(3)

are	39
were	14
was	7

 (7)

is	4
----	---

are, wereのように、主語
が複数の場合に用いる be 動
詞の誤答が多いのは設問中の
主語が everything のためと
考えられる。

(8)

not liked	8
wasn't like	5
doesn't like	5

(9)

haven't finish	16
don't finish	15
not finished	6

(4)

have never been	14
will be never	8
never will be	7

(13)

works	25
working	7
worked	6

(16)

returned	13
----------	----

(14)

made	11
am makeing	8
have made	6
makeing	5
making	4

2. 時制の一致

正解	誤答数
He <u>said</u> that the greatest man <u>was</u> his father.	11

動詞をどちらも 過去にせず	1
動詞を1つだけ 正答	10

(15)

flying	16
flys	12
flew	3
flied	3
is flying	3

II. 文

1. 語順

1つ誤答	3
2つ誤答	27
3つ誤答	1
4つ誤答	18

疑問文を1つも作っていない答案	25
writing の綴りの誤り	6
?の忘れ	1

2. 文の種類

1	平叙文	・	4
2	疑問文	?	11
3	命令文	・	20
4	感嘆文	!	0

(3) 命令文の誤答例

1	15
?	5

今日の子供は日本語で命令形の文を書く時、よく、/とか!!という印を語尾につける。これが影響しているのであろう。

III. 形容詞・副詞

	正解	誤答数
1	faster	9
2	prettier	42
3	the most beautiful	69
4	the best	68

誤答例

(1)

faster	2
--------	---

(3)

the なし	49
the beautifulst の類	7

(2)

more pretty	11
prettyer	8
pretter	6
prittier	4

(4)

the なし	50
the goodest の類	7

IV. 助動詞

	正解	誤答数
1	may	2
2	don't have to	106
3	will	11
4	shall	3

誤答例

(2)

must notの類	83
may not の類	12

V. 人称代名詞

誤答例

1	your	26
2	she	7
3	mine	5
4	their	21
5	her	30
6	his	6
7	our	26

(1)

me	6
this	6

(4)

your	4
thier の類	7

(6)

hes	1
-----	---

(2)

you	3
-----	---

(5)

hers	15
Jane's	5
my	4
her's	3

(7)

your	5
my	5
us	3
ours	3
the	2

VI. 関係代名詞

1. 用法

	正解	誤答数
1	which	8
2	who	4
3	that	12
4	whose	12
5	which	10
6	whom	16

誤答例

(1)

that	5
------	---

(5)

that	7
------	---

(2)

that	2
------	---

(6)

who	5
-----	---

(3)

whom	8
------	---

that	4
------	---

whose	3
-------	---

which	3
-------	---

(4)

whoes	7
-------	---

2. 省略

	正解	誤答数
3	that	41
5	which	28
6	whom	36

三つとも正解	49
二つのみ正解	55
一つのみ正解	17
正解なし	7

VI. 関係副詞

	正解	誤答数
1	when	4
2	where	6

VII. 受身

誤答例

	正解	誤答数
1	is loved	18
2	was caught	15
3	is spoken	28
4	won't be played	59
5	is called Spot	16

(1)

was loved	8
is loves	3
is love	2

(3) spoken が書けず誤答となった者が12名。

(4) will not まで書いた者21名。

(2)

were caught	6
was caught	3

will be played	7
will not play	6
will not played	6
won't be play	5

IX. 分詞・動名詞

誤答例

	正解	誤答数
1	making	36
2	made	6
3	making	64
4	showing	84
5	showing	19

(1)

make ing	11
makes	11
to make	7

(5)

was called Spot	4
is call Spot	2

(3)

to make	24
makes	18
make	9
made	9

(4)

shown	25
shows	21
showed	19
show	9

(5)

showed	9
--------	---

XI. 不定詞

1.

	正解	誤答数
1	want you (to) help	15
2	saw Mary (×) buy	28
3	had better (×) go	51
4	told me not (to) go	7
5	Let me (×) try	16
6	made us (×) use	32
7	want (to) learn	10
8	asked my mother (to) play	3

2.

	正解	誤答数
1	B (形容詞的用法)	31
2	D (副詞的用法—目的)	44
3	A (名詞的用法—目的語)	26
4	C (副詞的用法—原因)	43
5	E (It is ~ to ~)	12
6	F (疑問詞+不定詞)	10

XI. 単語

	正解	誤答数
1	many	6
2	first	13
3	fourth	45
4	Thursday	51
5	sixth	16
6	Saturday	16
7	December	21
8	February	60
9	April	10
10	no	65
11	much	77

誤答例

(1)

much	2
meny	2

(2)

fast	7
farst	3

(3)

forth	25
third	6
touth	4

(4)

Tuesday	12
---------	----

Thirsday, Thurseday, Thersdayのように、発音はなんとかできるが正確なつづりを知らないと思われる者—14名。

(5)

fifthの類	8
six	2

(6) Saterdag, Satorday, Suterdayのように、発音はなんとかできるが正確なつづりを知らないと思われる者—11名。

(7)

Desember	6
November	4

Desember, Dicember, Disemberのように、発音はなんとかできるが正確なつづりを知らないと思われる者—10名

(8)

Febuary	16
Febuary	9

Febu で書き出している者—24名, Febr で書き出している者—18名である。日本語の音節文字が常に母音をとまうためだろう。

(10)

not	23
little	13

(11)

many	31
a lot of	6
always	4
a	5
some	4

thirdの誤りは週を日曜日から数えるのを知らないためだろう。